

第4 いじめの未然防止

1 方向性

いじめはどの子にも起こりうるものであり、加害者にも被害者にもなり得るものであることを基本とし、本基本方針第1に則り、個性や価値観の違いを認め、自他を尊重する態度を育むことが重要である。そのため、全教職員が一致して教育活動を充実させると共に、関係機関と連携を強める。「居場所づくり」「つながりづくり」「やりがいづくり」を基本とした学級経営・授業の充実を基本とする。

2 いじめ未然防止のための取組

(1) 認められ、受け入れられる学級づくり、学校づくりを推進する。

- ◆自らの気持ちや考え方等を安心して表現できる学級づくり
- ◆温かな人間関係を育む学級づくり
 - ・スクールカウンセラー、外部有識者等の定期的な助言
- ◆自分自身を率直に表現できる教育活動の計画・実施
- ◆聴く姿勢の育成を重視した学習活動等の実施

(2) 児童相互、児童と教職員とのつながりを強める取組を充実させる。

- ◆聴く力の育成を重視した教育活動の実施
 - ・朝の会（虹の輪タイム）の充実
 - ・授業での聴き方の指導 等
- ◆相互の立場や気持ちを伝え合う活動の重視
 - ・気づき、感じ方、考え方、理由等を引き出し、互いに味わう授業の充実
 - ・主体的・自主的な学級活動の工夫 等
- ◆「つながり」を育む行事等の実施
 - ・全校児童をつなぎ、年齢をこえてかかわり合うことのできる特別活動の計画・実施
 - ・相手を意識するとともに、とりわけ年齢の低い子を支える全校活動の実施
- ◆相手を意識して話し、行動できる力の育成
 - ・話す態度、声の大きさなど、話す力を育てる学習活動の工夫・実施
 - ・相手の立場や考え方、その違い等を重視した特別活動の実施
 - ・当番、役割の工夫等「みんなのために活動する」ことへの価値観の育成
 - ・合唱活動、大縄大会等「心をつなげる」取組の充実

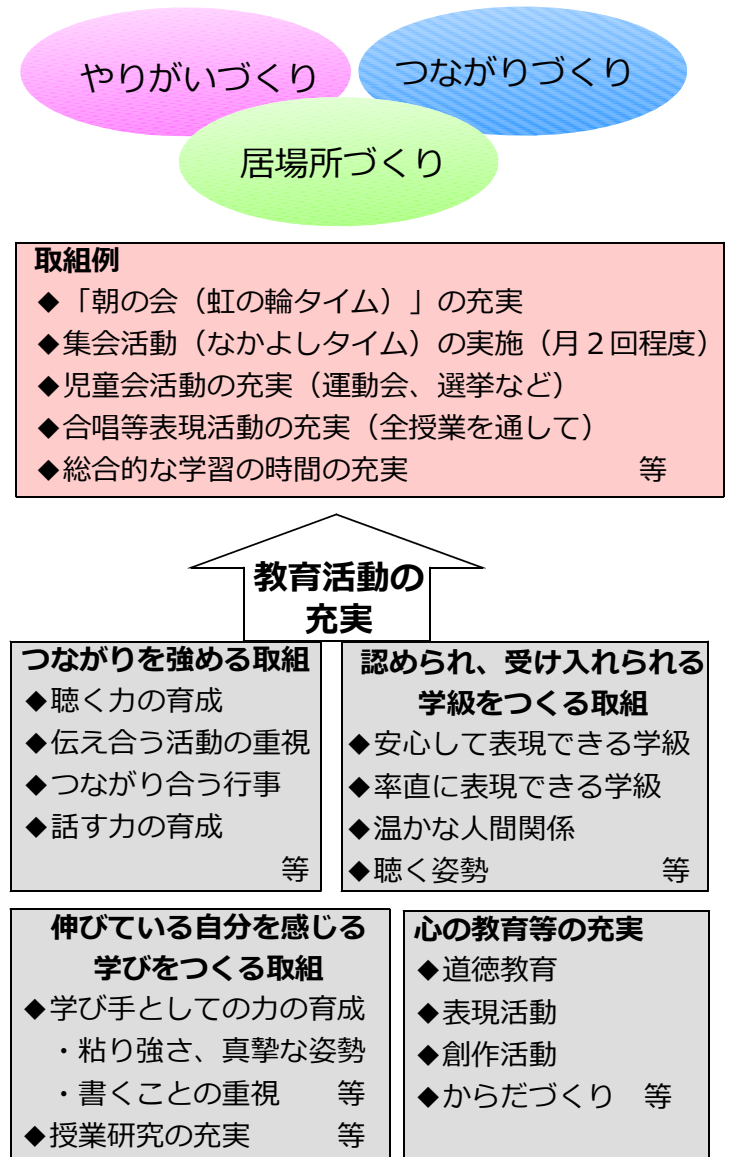


図6 教育活動の充実といじめ防止についての考え方